

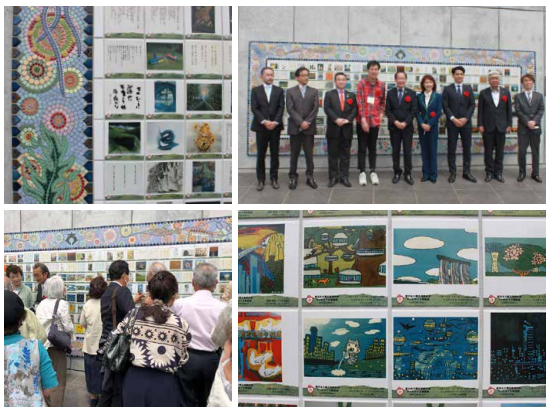
ギャラリーためなが京都 一周年記念展 『巴里を魅了する和の作家たち』 日本の現代作家を世界に発信する拠点として

ギャラリーためなが京都は、昨年3月23日、鴨川のほとりにある築100年を超える町屋を改装してオープンした。昨秋50周年を迎えたギャラリーためながパリ店が、半世紀にわたりセーヌ川右岸から世界に向けて近・現代の美術を発信してきたように、京都店は千年後も残る才能溢れる日本の現代作家を世界に発信するための拠点としてスタートしたのだ。今年の開廊一周年記念展『巴里を魅了する和の作家たち』(4月17日～5月22日、会期終了)は、毎年パリ店で開催している「Nouvel Horizon Japon(日本の新たな時代展)」に参加し、世界の美術愛好家に人気のある若手作家を中心に紹介した。智内兄助、菅原健彦、吉川民仁、江川直也、大沢拓也、小津航、梶岡俊幸、北川麻衣子、木村佳代子、中村ケンゴ、深尾力三、村本真吾、山本大也がその作家たちだ。京都店の今後に大いに期待したい。

●ギャラリーためなが京都 一周年記念展『巴里を魅了する和の作家たち』/会期終了/会場:ギャラリーためなが京都 京都府京都市東山区川端通七条上る上掘詰町265-7/営業時間:11:00～19:00/問合せ:☎075-532-3001 <http://www.tamenaga.com>



上／ギャラリーためなが京都の外観。
右／内部は2階構造。
左／屋根の上のランタン。



上左／モザイクアーティスト・KATSU氏のモザイクタイルには、陸前高田の海産物や夜空を彩る花火がちりばめられている。上右／5月21日、戸羽太陸前高田市長、元文部科学副大臣の高橋ひなこ氏が除幕式に駆け付けた。下左／15センチ四方のアートタイル約230枚でびっしり埋め尽くされている。下右／シンガポールや陸前高田の子供たち、全国及び陸前高田市のアーティストの作品で構成されている。

復興の祈りが壁画に 陸前高田に出現した「アートタイル壁画」という絆

陸前高田市の高台に建つ陸前高田市コミュニティホールに出現したのは、東日本大震災復興祈念として作られたアートタイル壁画[上右]。同ホールは、震災後、シンガポール政府からの支援で建設された交流施設だ。山を削り、円形の広場を囲むように作られたこの施設は330人を収容する多目的ホールの他、会議室や集客室も備えており、地域住民の憩いの場として利用されている。

そのコミュニティホールの外壁を飾ったアートタイル壁画は、高さ約2メートル、幅約6メートル。約230点の陶板製のアート作品で埋め尽くされている。シンガポールや陸前高田の子供たち、日本全国のアーティストらによる

絵画や詩歌などの作品をタイルに加工したものを、モザイクタイルアーティスト・KATSU氏のアートで囲んでいる。「この壁画を観に来てくれる方がいれば、我々はまたさらに力づけられます」と、戸羽太陸前高田市長は語る。今回のプロジェクトは、国際総合芸術交流協会(志知正通理事長)の協力により実現。陸前高田の復興のシンボルは「奇跡の一本松」だが、また一つ、多くの人々の祈りが名所を誕生させた。

●東日本大震災復興祈念アートタイル壁画展～KIZUNA～/会場:陸前高田市コミュニティホール 岩手県陸前高田市高田町字榎ヶ沢210-3/問合せ:☎0192-54-5520 <https://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/>

陸前高田市コミュニティホールを守るように建つマリーライオンの象。

